

体験型海外教育実地研究 ー第5学年社会科「色々な地図」ー

教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修 大村 正樹

1. はじめに

体験型海外教育実地研究を受講した動機は2点である。1点目は、専攻が初等教育で副専攻が中等・高等教育の英語であるため、アメリカの学校での授業実践を体験したいと共に、アメリカの文化や生活について体験したいと考えたからである。2点目は、修士論文において、外国の実践を参考にしながら、日本の幼稚園での環境構成や小学校での学習環境について扱っているので、アメリカの学校における環境構成や学習環境を観察したいと考えたからである。

2. 実地研究の日程と概要

		交通等	訪問地・用務等	泊
4/11	火	1210-1240 L304	履修等、説明会	
5/31	木	1435-1605 L304	オリエンテーション ミニ講演会・フォーラムの打ち合わせ	
6/8	金	1300-1500 C527	ミニ講演会	
6/9	土	1300-1730	広島ガーデンパレス 第3回学校間交流国際フォーラム	
7/5	木	1435-1605	事前研究1 個別研究テーマの設定 授業実践研究の内容と方法 日本文化の紹介(エクスプローリス・ミドルスクール) について内容と方法の打ち合わせ	
8/2	木	1435-1605	事前研究2 授業の教材開発と指導法研究 指導案・教材・教具の交流と検討	
8/30	木	1330-1605	事前研究3 指導案・教材・教具の交流と検討 日本文化の紹介(エクスプローリス・ミドルスクール) について内容と方法の打ち合わせ	
9/11	火	1435-1700	直前打ち合わせ 日程などの確認 渡航準備 日本文化の紹介(エクスプローリス・ミドルスクール)の内容と方法	
9/15	土	広島-成田 0745-0925 (NH-3128) 成田-ワシントン 1110-1040 (NH-2) ワシントン-ローリー		米国ノースカロライナ州 Raleigh Marriott Crabtree Valley

		1240-1359 (UA-459)		4500 Marriot Dr, Raleigh, NC27612 TEL(919)781-7000 FAX(919)781-3059
9/16	日		East Carolina University 事前打ち合わせと準備	Greenville <u>City Hotel&Bistro</u> 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC27834 TEL(877)271-2616
9/17	月		G.R.Whitfield School (Ms. Pam Justesen) 学校見学	Greenville 同上
9/18	火		G.R.Whitfield School (Ms. Pam Justesen) 授業実践 リトルワシントン観光	Greenville 同上
9/19	水		Duke University	Raleigh <u>Sheraton Raleigh</u> 421 S. Salisbury Street Raleigh NC27601 TEL (919)834-9900
9/20	木		Exploris M.S. 日本文化の紹介 Exploris Museum Natural Museum	Raleigh 同上
9/21	金	ローリー-ワシントン 1025-1131 (UA-7139) ワシントン-ニューヨーク 1230-1351 (UA-7365)	ニューヨーク観光	New York <u>Raddison</u> <u>Lexington Hotel</u> 511 Lexington Avenue 48 th Street New York 10017 TEL(212)755-4400
9/22	土		ニューヨーク観光	New York 同上
9/23 9/24	日 月	ニューヨーク-成田 1230-1525 (NH-9) 成田-広島 1725-1900 (NH-3129)		機内泊

3. 実地研究授業

3.1 単元名 第5学年社会科「色々な地図」

3.2 事前準備

単元設定の理由は、アメリカの子どもからみて外国人である自分が、世界各国が使っている色々な地図を比較することを通して、世界には色々な見方があるということを教えることに価値があると考えたからであり、同時に授業の目標に設定した。

事前準備としては、日本で一般的に使われている日本が中心に描かれている地図と、アメリカが中心にある地図と、オーストラリアやニュージーランドで使われている南半球が上にある地図の3種類を用意した。授業計画においては、最終的に「世界には色々な見方がある」ということに気付けるように、主要発問を3つ用意し、うち2つについては子どもが各自ノートに自分の意見を書く時間を設定した。

3.3 学習指導案

Lesson Author: OMURA MASAKI

Date: September 18, 2007

Grade Level: 5 grades

Subject: Social Studies/ Various Maps

Description:

The children seem to have seen the map which is drawn American Continent in the middle, but they don't seem to know other sorts of the maps. Think why there are various kinds of maps, looking and comparing with other two kinds of maps.

Goal:

The aim of this plan is to let the children get to know that there are various points of view of seeing the world by showing 3 kinds of the maps.

Objectives:

As a result of this activity, the children will be able to:

1. recognize there are various points of views when seeing the world.
2. try to communicating with people in the world even though there're various maps in the world.

Materials, Resources and Technology:

For this lesson, the teacher would need 3 kinds of maps, the first one is drawn American Continent in the middle, the second is Japan in the middle, and the last one is up side down. The class would be started by the introduction of the teacher, and the subject would be moved to the maps.

Procedure:

At the beginning of the class, children would listen to the introduction of the teacher, including about Japan.

Then, they would look at the maps which American Continent is in the middle. Then, they're shown the maps which is drawn Japan in the middle, or up side down.

After looking at the various maps, they would recognize that there are various points of view through thinking whether the map would be 1 type.

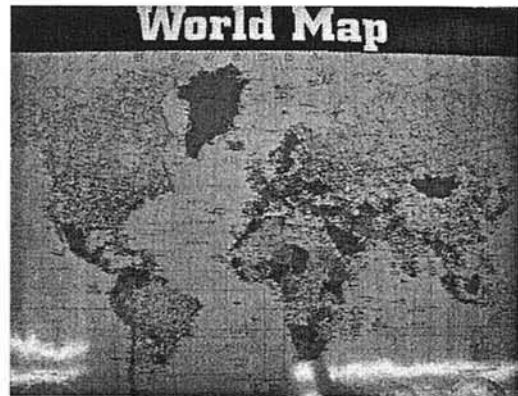
Finally, they come to know that they're able to communicate with people in the world even through there are various points of view.

Some examples of questions that the teacher could ask would be:

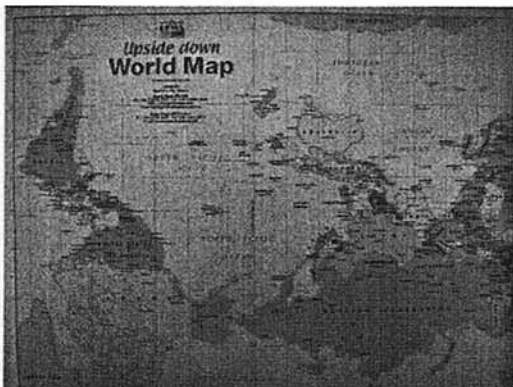
1. What's the difference? (asking with pointing two kinds of maps)
2. Why are there various kinds of maps?
3. Do you think that people in the world should use the same map, or different maps?

3.4 授業の実際

まず、授業の冒頭に授業者の自己紹介をして、日本から来たということを説明した。そこで、アメリカ大陸が中心に描かれた地図を提示し、両国の位置を確認させたところで、日本が中心に描かれた地図を提示した。「この2つの地図の違いは何だろう」という発問をし、中心に描かれている国が違うことを押さえた上で、「どうして色々な地図があるのだろうか」という学習課題に繋がった。ここで、各自ノートに意見を書かせて、全体場で共有した後、南半球が上に描かれた地図を提示し、今までのものと比べて上下が逆になっていることを確認した上で、今度はどこの国が使っている地図が発問した。最後に、今日扱った3つの地図以外にも色々な地図があるが、世界の人々は共通した1つの地図を使う方がいいか、それとも異なった種類の地図を使う方がいいかを尋ね、再度各自ノートに書かせた上で、全体場で交流して、まとめにあてた。



3.5 考察



導入の自己紹介から2枚の地図を見比べて、「片方の地図は日本が端にあるけれど片方の地図はアメリカが端にあって日本が真ん中にある」という言葉は子どもからでてきたが、「どうして色々な地図があるのだろうか」という発問については、考える観点を与えなかったため、どのように自分の意見を書けばいいのか戸惑う子どもが何人もいた。更に、上下が逆になった地図はどこの国で使われているかという発問については、それまでの発問と比べていきなり難しくなったため、「アメリカで使われている

地図はアメリカが上にあって中心にあり、日本で使われている地図は日本が上にあって中心にある」という補足説明をその場で加える必要があり、最終的にオーストラリア（ニュージーランド）という答えが出てくるまでにかかなりの時間がかかってしまったので、最後の発問を十分に交流する時間がなかった。しかし、世界地図を1つに統一した方がよいかという発問に対しては、統一した方がいいという意見の子どもが3人で、残りは異なっていた方がいいという意見であった。その理由としては、授業の意図である「色々な見方があるから異なっていた方がいい」「言語や文化が違うから地図も違うと思う」から、「上下逆の地図は逆さまにすると結局一緒になるから1つで構わない」や「地球は丸いから1つの地図に表すことは難しい」など、実に多様な意見が出された。授業全体の流れとしては、こちらが発問して子どもに考えさせる場面が多かったので、作業や活動を入れるとメリハリが出て尚よかったのではないかと思われる。

4. 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

外国人である自分がアメリカの子どもに対して、世界には様々な見方があるということを教えることに価値があるということにこだわったことが授業実践の何よりの原動力であったと思うので、やはり授業は目標が大切であるということを再確認した。加えて、授業をするにあたって必要な点、留意すべき点は誰を相手にしようと同じであることにも気付いた。また、学校は社会の一部であり、その国やその地域の実情や特色を含んでおり、ひいては文化や言語に深く関係していることを実感した。

修士論文における環境構成や学習環境という点については、アメリカの実践を見て、日本にない要素をたくさん学ぶことができた。以前イギリスに留学した際も、幼稚園と小学校を訪問し環境構成や学習環境を観察したことがあるが、そのときはイギリスの実践における優れた点のみばかりが印象に残り、反対に日本の改善される点ばかりが浮かんだが、今回アメリカの学校を訪問して、自分の中で比較する観点が3つになったので、それぞれの国の学校における良い点と課題すべき点について冷静に考えることができるようになった。

4.2 自分自身についての変容

外国を訪れたことで、教育以外のことも含めて日本や日本人の長所や短所について少し客観的に捉えることができるようになった。また、日本とは環境や状況が大きく異なるアメリカの子どもに対し授業実践をすることは大変だったが、伝えたいという気持ちを持つことが何より大切であるということを感じた。ひいては何か物事に取り組むときにも、いつもうまくいくとは限らないが、自分の気持ちを保つことが大切だということを実感した。英語については、自分の伝えたいことを英語でどう表現したらいいのかわからない場面がしばしばあったが、1回言って相手が分からなかったとしてもすぐに諦めずに再度伝えようとすることができるようになった。

4.3 グローバルマインドに関する変容

つたない英語であったが、授業以外の時間も含めて、こちらが話しかけると心を開いて聞いてくれたり笑顔で答えてくれたりしたアメリカの子どもに本当に助けられた。以前イギリスに留学した際に、「Personalities are more important than nationalities」という感想を持ったことがあったが、外国の方とかかわるときも、日本人と外国人である前に人と人なのだとすることに改めて気づき、まずは人とかかわりたいという気持ちを持つことが大切であるということを感じた。また、日本人は往々にして「英語ができさえすれば、外国の人とコミュニケーションをとることができる」と考えがちであるが、言語のみがコミュニケーションを成立させる要素ではないし、それ以前に西洋の人が全て英語を話すわけではないということに改めて気付いた。

世界にはたくさんの文化・言語・価値観がある。その中には自国のものとかげ離れているものも多々あると思われるが、まずはお互いに知ることが異文化を理解する第一歩であるということを感じた。これからも新聞の国際面を読んだり大学に来ている留学生との交流を続けるなどして、引き続き外国の文化に触れる機会を持つようにしたい。

5. おわりに

10日間という非常に短い滞在だったが、本当に貴重な経験を積むことができた。この体験型教育実地研究は1つのきっかけに過ぎないと思うので、学んだことを日本での生活に生かして生きたい。また、研究に関しては、今回観察した実践や話を聞いた内容について、少しでも客観的に捉えられるように、ノースカロライナ州の小学校のカリキュラムを調べて、G.R. Whitfield School のどの点がよい点なのか、またその内どの要素が日本の実践に生かせるのか、考察を深めていきたいと思う。